

9月定例会 一般質問 (要旨)

一般質問は、定例会で議員が議案に関係なく市政全般について市の方針をたずめます。9月定例会で質問を行った議員の主な質問と答弁の内容を紹介します。(質問順)



市政研究会 森 義明 議員

- ①川岸市長の2期目市長選出馬と所信について
- (1)来春の市長選に対する対応と所信
- (2)1期4年間の実績と反省点
- (3)2期目に対する重要課題と目標

質問① 市長はこの3年4ヶ月バランス良く公約を遂行し実績を重ねてきたと思うが、自分では鈴鹿市づくりの実績と手ごたえをどのように評価・判断しているか。さらに、鈴鹿市には重要な問題が山積しており、これらの問題解決と事業推進のため、引き続き市政運営を担当する気持ちはあるのか。地方自治体を取り巻く環境は益々厳しくなり、民間出身の現市長に経営感覚を取り入れた市政運営を力強く積極

的に引き続き推進してもらいたい、2期目出馬にあたり、その目標と重要政策、課題は何か。

答弁① 大きな変革を乗り越え、本市があるべき姿を追求するため、「対話」と「信頼」を政治姿勢の基本に据え、市政の舵取りを行ってきた。一期4年はあまりにも短く、市民の負託の重さを考えた時、鈴鹿市づくりの課題克服というには、現在のところ、すべての面において、十分満足していただけるほど、負託にお応えできたと言えるまでには至っていない。10年計画としてスタートしたばかりの「みんなで築く鈴鹿夢プラン」を、粛々と着実に進展させ、大きな変革のうねりを乗り越えた先にある本市のあるべき姿の一端を自らのリーダーシップでとらえることで負託に応えられるのではないかと考えている。



市政同志会 儀賀 久明 議員

- ①工業用水使用対応はこれでいいのか
- ②自殺対策法成立に併せて対応策は
- ③市内幹線道路網の早期整備対策は

質問① シャープが必要とした加佐登調整池からの工業用水供給を断ったが、県の要望を聞く事により、鈴鹿市に以後、より以上の効果を生む選択も出来たと思うが、飲水の地下水有効利用を考えても残念に思われ、県と市の交渉過程と反対理由を尋ねる。

答弁① 亀山は三重用水の域外であり、県からの事前協議もなかった。また議会及び関係団体の反対もあり、県は工事着工を一方向的に断念した。

質問② 自殺者が8年間連続して3万人を超す異常時になっているが、法成立に併せて市も対策を考え、自殺者を少なくする取り組みをすべきでは。

答弁② 最終的には心の問題になると思うが、個々の背景にある様々な社会的要因もあり、国・県・関係機関等の協力を得ながら健康相談、訪問指導等の事業を実施し、心と体の健康づくりに努めたい。

質問③ 幹線道路の完備が市の発展に繋がると思われるが、1日も早く達成するための策略は。

答弁③ 道路は、安定した財政基盤の基となる産業の活性化を図っていく上でも、最も重要な社会資本であると考えている。行政・議会・経済団体等と連携し、国・県へ幅広く要望活動が続けるとともに、関連事業には積極的に対応する。



政友会 南条 和治 議員

- ①平成19年度からの水田農業政策を問う

質問① 農業政策の動向とそれぞれの施策の対応、鈴鹿市の転作助成の今後について。市を中心に関係機関とワンフロア化し、協力体制をとっていくべきではないか。新制度について、地元農業者に対し更なる周知を推進してはどうか。

答弁① 新たな農業政策の基本となる「経営所得安定対策等大綱」は「品目横断的経営安定対策」「米政策改革推進対策」「農地・水・環境保全向上対策」の3つの対策で構成され、新たな需給調整システム

の定着が円滑に行うことができるよう、引き続き、担い手育成施策と連携を図りつつ、生産現場で推進する。併せて、農地を継続的に守っていく方策として、地域における営農組合の育成施策を引き続き促進する。転作助成については、国の政策方針に従いながら、本市の水田農業に適した生産調整や集団づくりを引き続き推進する。鈴鹿市水田農業推進協議会において、更なる連携強化を図るとともに、ワンフロア化については、関係機関の更なる連携を目指し、少しでも早く実施すべく努力している。地元農業者への周知は、各地域にある水田協議会における説明会の開催やパンフレットの配布等、機会あるごとに農家の方に各制度の周知を図っていく。